

いま見直さるべき高潔の精神

# 「緒方竹虎」復刻版 発刊

巻末に掲載されている「修猷館創立70周年記念講演」の文章は、昭和30年高校3年生であった私達に語られたものです。現在の政治や社会の混沌を前にして「日本の将来」を託された私達は、責任を果たしてないことを猛省するとともに、緒方先輩の遺された思いを皆様にお伝えしく、56年前に出版された「緒方竹虎」追悼集を復刻致した次第です。新しい時代を牽引する一燈になればと願っております。

平成24年5月

金印俱楽部会長 出光 芳秀



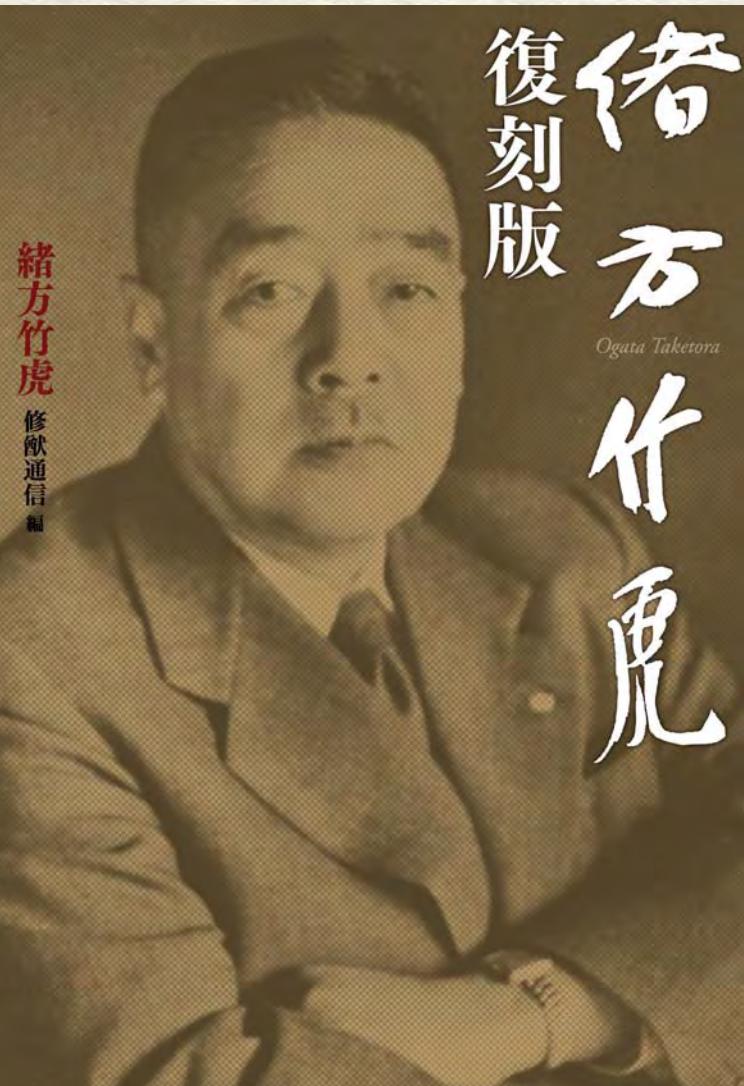
緒方竹虎は、幕末に洪庵の適塾で塾頭を務めた緒方研堂の孫、林学者で後に福岡農工銀行頭取、父道平の三男として1888(明治21)年、山形県に生まれました。福岡で幼少期、青年期を過ごし、福岡県立中学修猷館(現修猷館高校)を卒業。早稲田大学から大阪朝日新聞社に入社し、主筆や代表取締役などを歴任した後、当時の内閣で国務大臣、顧問などを務め、衆議院議員に当選し政界に進出します。

剣道で培った「心外無刀」の精神を糧に、二・二六事件では言論の自由を守り、親友中野正剛のために当時の総理大臣とも対峙しました。政界では、圧倒的リーダーシップで保守合同を成就。清廉高潔な人格は多くの国民の支持を得ていました。

第五次吉田茂内閣では副総理、自由党総裁にも就任し、総理大臣も間近と目される中、1956年(昭和31)年1月、67歳で急逝しました。

戦後混迷する政界で「保守合同」という大業を成し遂げながら総理就任目前で惜しまれつつ急逝した福岡の英傑・緒方竹虎

鳩山一郎、鈴木茂三郎、徳富蘇峰、蒋介石らがその功績を振り返り賛辞を呈する回顧録



ご注文は  
こちらから

定価：1,000円(本体952円+税) A5判、並製、208ページ

きんいんくらぶ 〒810-0021福岡市中央区今泉1-10-21-901  
**金印俱楽部** TEL(092)737-5430 **FAX(092)737-5432**

42人からの追悼・追憶文と本人の遺稿を掲載

- 竹馬の友「中野正剛」との絆
- 剣道で培った「心外無刀」の精神
- 言論の自由を守った「二・二六事件」
- 終戦直後の「東久邇宮内閣」で奔走
- 「A級戦犯」容疑者指名
- 吉田茂内閣に「総辞職」を迫る
- 「憲法改正」に込めた自主独立への思い

他

URL : fukuoka-senjin.kinin.com  
mail : kinin@kinin.com

注文数
冊

「緒方竹虎」復刻版発刊 修猷通信編 (西日本新聞社発行)

A5判、並製、208ページ	定価：1,000円(本体952円+税)		
ふりがな	〒	TEL	
お名前	ご住所		

◎ご記入の上、FAXでお申し込みください。別途送料が必要です。1冊～5冊は200円、6冊以上は無料。

# 時宜を得た復刻

朝日新聞社 顧問

箱島 信一

一一



「巨星墜つ」。緒方竹虎さんの突然の逝去を一面トップで伝える新聞の見出しあは、今も脳裏に焼き付いています。当時は修猷館高校の三年生。緒方さんはその前年昭和三十年五月の創立七十周年記念式典に来校され、後輩たちを前に「日本再建の推進力たれ」と熱弁を振るわれました。それからわずか八ヶ月後の悲報に、卒業を目前にした私たちは強い衝撃を受けました。

保守合同で誕生したばかりの自民党にあつて、次期首相指名に大きな期待が寄せられていた政治家の死に、普段は政治に無関心な人も含め国中が深い喪失感に沈みました。

乞われての政界入り前、緒方さんは朝日新聞主筆として日本が急速に軍国化して行く困難な時代にあつて社論をリード。二・二六事件の際は社内に乱入した青年将校にピストルを突きつけられながらも冷静悠揚の応対をなし、朝日新聞社は今もこの社史の一コマを誇りとしています。

才気走った口舌の徒や権謀術数の輩にこと欠かない政界にあって、緒方さんの存在を際立たせたのは、恬淡無私の精神、生來の使命感、そして大人の風格であり、霸道でなく王道の人だつたことです。

その死から半世紀余り。いまリーダー無き政界は日本の国威、国力の低下をよそに不毛の内部抗争に明け暮れています。

そのような折柄、「緒方竹虎」が修猷館関係者の熱意で復刻されることになったのは、まことに時宜を得た快挙です。出来るのは、まさに時宜を得た快挙です。出来るのは、まさに時宜を得た快挙です。

その死から半世紀余り。いまリーダー無き政界は日本の国威、国力の低下をよそに不毛の内部抗争に明け暮れています。

## 王道を歩んだ証言集

西日本新聞社 代表取締役社長 川崎 隆生



昨夏、東京・日比谷の松本楼で開かれた辛亥革命百周年行事の実行委員会で緒方四十郎さんと隣り合わせになりました。緒方竹虎さんの三男で日銀の理事を務められ、前JICA理事長の緒方貞子さんの夫でもあります。

四十郎さんに追悼冊子の復刻計画を伝えると、一冊の文庫本をポケットから出されました。

「老政治家の回想」著者の古島一雄氏は、緒方竹虎さんの新聞記者、政治家の先輩であり、古島氏の自伝的政治史ですが、実はこの本は書き書きの形で緒方竹虎さんがまとめたものでした。

「革命中国との因縁」の章には「浪人の天国、福岡」があり、



緒方四十郎、貞子ご夫妻（平成24年4月外務省主催のレセプションにて）

